

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年8月29日

## 【評価実施概要】

事業所番号	272500935		
法人名	社会福祉法人延寿福祉会		
事業所名	グループホームたんぽぽハウス		
所在地 (電話番号)	〒039-4301 青森県上北郡六ヶ所村大字泊字川原1396番地1 (電話) 0175-77-3106		
評価機関名	社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20-30 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成 20年 6月 9日	評価確定日	平成 20年 8月 29日

【情報提供票より】(平成 20年 5月 16日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成)13年 12月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤	7人, 非常勤 人, 常勤換算 人

### (2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	10,000 円	その他の経費(月額)	15,000 ~ 冬期16,500 円
敷金	有( 円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 750 円		

### (4) 利用者の概要( 5月 16日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名	
要介護1		名	要介護2	3	名	
要介護3	1	名	要介護4	3	名	
要介護5	1	名	要支援2		名	
年齢	平均	85.2 歳	最低	80 歳	最高	94 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	泊診療所、尾鯨診療所
---------	------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>自然に囲まれた敷地内にあり、道路の騒音も感じず静かでゆったりとした時間が流れている。民家から外れたところにあるものの、近所にあるホテルや地域の協力体制があり、災害時や緊急時は連携があり心強い。また外出や地域の行事への参加が、利用者の楽しみの一つとなっている。職員は事業所独自に8つの理念を掲げ、利用者が笑顔で楽しく、安心して生活できるようケアに取り組んでいる。</p>
---

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価の主な改善課題として、・地域へ向けての啓発・利用者の生活歴の把握・食事の栄養バランス があげられていたが、まだ改善には至っていないものの、取り組んでいる段階である。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>運営者・管理者は意義を理解し、自己評価への取り組み、前回の評価での問題点を改善していくように努めているが、職員全体では、評価の意義や活用について共有化されていない。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>2ヶ月に1回、ホーム内で運営推進会議を開催し、民生委員・町内会長・福祉課職員・地域包括支援センター職員等にホームの日常生活や行事、外部評価、自己報告等を報告している。提案や意見等は活発に出ない状況があるが、会を重ねながら、意見や気づきなどを取り入れていこうと意欲的である。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10, 11)</p> <p>面会時やたんぽぽ通信を通じて家族との連絡を取り、意見や不満、苦情を取り上げ、職員間で情報を共有し、すぐ対応して日々の支援に反映させている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>近所が遠いながらも、定期的に近くのホテルでの食事会や地域の祭り、行事に積極的に参加し、地域へ出掛けることを大切にしている。その反面、入居していることを地域住民に知られたくないという家族もあり、地域に対しての認知症やグループホームの積極的な普及活動が不十分である。</p>

## 2. 評価結果(詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念をもとに、事業所独自の理念を考え、誰が見てもわかりやすく受け入れやすい理念を作り上げている。		高齢者が多い地域である為、地域密着の役割を盛り込んだ理念の検討をし、サービス提供へとつながることに期待したい。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員が理念を心に留め、達成できるよう各所に掲示し職員会議の際や日々振り返り、理念の実現に向けて取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	4	隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	民家から離れた所にホームがあるため、買い物に出かけた際に地域住民との交流がある程度で、隣近所との日常的な交流はない。近所が遠いながらも定期的に近くのホテルでの食事会や地域の祭り、行事に積極的に参加し、地域へ出掛けることを大切にしている。その反面、入居していることを地域住民に知られたくないという家族もあり、地域に対しての認知症やグループホームの積極的な普及活動がされていない。		近所が遠いながらも外出の機会を大切にし、職員が一丸となって取り組んでいる。地域との交流が日常的にできるような取り組みや、運営推進会議を通じて啓発活動に期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	5	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>運営者・管理者は意義を理解し、自己評価への取り組み、前回の評価での問題点を改善していくように努めているが、職員全体では、評価の意義や活用について共有化されていない。</p>		<p>全職員で評価の目的を共有し、自己評価についても一部の職員だけで行うのではなく、全員でケアについて振り返り、確認し合えるような機会になることが望ましい。</p>
5	6	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>2ヶ月毎にホーム内で開催し、民生委員・町内会長・福祉課職員・地域包括支援センター職員等に状況を報告し、意見交換している。</p>		
6	7	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>定期的に近況や事故報告等をし、情報の共有はしているものの、課題解決に向けての協議までには至っていない。</p>		<p>今後は更なる働きかけをし、サービス向上のために情報交換や協議等を行うことに期待したい。</p>
7	8	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>対象者がいなかった事もあり、職員間で研修の機会は設けておらず、情報提供や活用はしていない。</p>		<p>必要時には本人、家族へ情報提供ができるよう全職員で知識を深めていけるような取り組みの実現に期待したい。</p>
8	9	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>職員会議を利用して虐待について学ぶ機会を設けたり、虐待につながる可能性がある場合には管理者が直接指導しているが、職員間での虐待の知識や認識に差がある。</p>		<p>虐待について、全職員が周知できるような取り組みに期待したい。</p>

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
9	10	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>よく質問がある、『いつまでホームを利用できるのか』や金銭面に関しては、理解するまで時間をかけて説明している。説明後も随時質問を受けたり、相談にのったりしている。</p>		
10	12	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月の支払いを現金払いとし、月1回、面会の機会作りをしている。毎月発行の“たんぼぼ便り”を活用し、利用者の体調や暮らしぶり、担当職員からのお知らせを利用者個々に伝えている。</p>		
11	13	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族との対話の中から、意見や不満、苦情を取り上げ、職員間で共有し、日々の支援に反映させている。</p>		
12	16	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>退職や人事異動などにより職員の交代は何度かあったが、全職員が利用者の把握に努めており、利用者への影響は殆どない。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
13	17	職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社時の新人研修のほか、月1回の内部研修を開催し、講師は全職員で持ち回りとして実施している。働きながら共に学んでいくという姿勢がある。		
14	18	同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームの連絡会等へは運営者が参加し、職員は外部研修への参加の機会は少ない。また同業者と交流する機会はない。		外部研修への参加や他ホームの見学等、同業者と交流の機会をもち、悩みの共有や質の向上についての意見交換等ができるような取り組みに期待したい。
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
15	23	馴染みながらのサービス利用  本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前の施設見学を受け入れており、安心してサービス利用ができるよう相談しながら工夫している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
16	24	本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者とのコミュニケーションを図り、寄りそい、思いを知ることに努めているが、昼食後の職員休憩が一斉に行われており、利用者との空間が分離され、違和感がある。		共に生活し、支えあう関係について職員間で話し合い、ケアにつなげていくことが望ましい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p><b>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b></p>					
<p><b>1. 一人ひとりの把握</b></p>					
17	30	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日々、利用者の意向を確認するよう努めているが、困難な場合は家族へ確認しながら、対応するようにしている。晩酌の希望がある利用者へは、医師と相談しながら健康面からの支援も行っている。外出希望者にも生活リズムの範囲で、可能な限り対応するよう努めている。</p>		
<p><b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b></p>					
18	33	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>本人、家族の意向のもと、各担当者が介護計画を作成し、カンファレンスにて意見交換し検討しているが、そのもとになるアセスメントの記録がない。</p>		<p>現在の状況や課題について、口頭でのみの検討では現状把握が困難である。本人・家族の意向を確認し、アセスメントを行い、十分に検討したうえでの介護計画の作成が望まれる。</p>
19	34	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>3ヶ月に1回カンファレンスを開催し、介護計画の見直しをしている。また、必要時には随時行っている。ADLの変化、アセスメントが記録として残されていない。</p>		<p>介護計画見直しの際に、ADLの変化やアセスメントの記録がなく、職員の記憶やメモでの把握になっているため、取り組みの検討をしていただきたい。</p>
<p><b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b></p>					
20	36	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>入院等で部屋が空いている場合は本人・家族の了解を得て、ショートステイ利用希望者を受け入れている。入居者の外泊時は、家族送迎を基本としているが、希望時は送迎するなど、柔軟に対応している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
21	40	かかりつけ医の受診支援  本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	村外の通院は長距離となり対応が困難であるため、家族が対応している。入所時にかかりつけ医について相談し、本人・家族の希望で村内の診療所に変更することもある。適切な医療が受けられるように、村内の診療所との連絡が密にできており、休日でも対応してくれる等の協力体制がある。		
22	44	重度化や終末期に向けた方針の共有  重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人の状態に合わせて、家族と相談しながら今後の生活について話し合いの機会を設けている。全職員で方針を共有し、支援に取り組んでいる。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	47	プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	状態不良の利用者の状態観察のため、ベットをリビングに移動し見守る体制をとっていたが、昼夜ともに状況がオープンになっており、プライバシーに配慮した対応がされていない場面があった。個人のケースファイルは個人名を表記せず、イニシャルで表して外部からすぐに目に付かないような工夫がされている。		常に利用者の観察が必要な場面もあるが、プライバシーの確保についての工夫を検討し、全職員で取り組んでいただきたい。
24	49	日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	通院介助など職員配置の関係で入浴日が延期となったり、柔軟な対応ができない時もある。		利用者個々のペースを大切に、できる限り利用者の希望に添えるよう、柔軟な対応への取り組みを期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>食材の買い物、調理、準備等はほぼ職員が行っている。短時間ではあったが、立ったまま後ろから食事介助が行われている場面があり、職員は食卓を囲んで一緒に雰囲気を楽しむ様子はみられなかった。近くのホテルへ外食の機会を設け、利用者の楽しみの一つとなっている。</p>		<p>食事が楽しめる雰囲気作りへの取り組みに期待したい。</p>
26	54	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>職員配置や業務状況により、基本としている週3回の入浴が実施できず、清拭や足浴等で対応することがあるが、利用者の希望には対応したいという思いがあり、入浴機会を確保するよう努めている。</p>		<p>最低限の入浴の機会が確保できるような取り組みを期待したい。</p>
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>利用者個々の生活歴や楽しみごと等の情報が不十分である為、役割や活動の働きかけをしても、利用者からはやりたくないという返事があり、支援につながっていない。外出については、可能な限り一緒に出かけることで気分転換の機会としている。</p>		<p>生活歴を十分に把握、記録し、個々のもてる力を触発できるような働きかけに期待したい。</p>
28	58	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>殆どを室内で過ごすか、声がけし、希望にそって、散歩や買い物へ出かけている。</p>		



外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
29	62	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月の内部研修でケアについての取り組み方を学び、実践に活かしている。今までにはミトン型の手袋を家族の了解を得て使用したこともあるが、現在は拘束は行っていない。		
30	63	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間は不審車両を見かけたり、不審電話が来るため玄関や窓には防犯センサーが設置されている。日中は施錠しておらず、職員の連携で見守りの体制をとっている。		
31	68	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	近隣ホテルや協力員(ガソリンスタンドや整体院等)との協力体制がある。年2回は利用者と一緒に、年1回は消防署と合同での避難訓練を実施している。		
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
32	74	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は職員が栄養バランスに配慮しながら、工夫して調理しているが、日により偏ることがある。食器を下げ際に摂取状況を把握し、日誌に記載している。食事摂取量により、捕食や時間をずらして提供するなど、その都度対応している。		献立の栄養バランスについては、課題としてあげられていたため、ホームでの工夫や取り組みに期待したい。
33	75	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	予防のため、随所に感染症についての張り紙をし、意識して日々の支援をしている。インフルエンザ予防接種は、毎年利用者、職員共に行なっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
		居心地のよい共用空間づくり			
34	78	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は、落ち着いて生活できる環境である。玄関を入ると、利用者が作った作品等が飾られており、温かい雰囲気がある。リビングにはやや幼稚と感ずる季節感のない装飾があり、違和感がある。		リビングなど室内の装飾について検討し、今後の取り組みに期待したい。
35	80	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物の持ち込みを勧めているが、必要最低限の物以外、ほとんど持参されることはない。		本人・家族へ、これまで使い慣れ親しんだ物を利用することの意図やメリットを伝え、持ち込みが困難な場合には、これから馴染みのものになるようなアプローチ方法の取り組みに期待したい。

 は、重点項目。